経団連会長が挑戦した国家像

評者・中　村　敏　夫

「魅力ある日本の創造」
豊田　章一郎著。東洋経済新報社刊。1996年。

経済人が書いた書籍は無数あるが、経済界の最高指導者の名前で出版されるのは希である。本書は経団連が総力を挙げて「新日本創造プログラム2010」を提言としてまとめた集大成といえる。著書の豊田章一郎経団連会長は本書の冒頭にて「私は、若者が未来に希望を持ち、世界の人々が日本に住んでみたい、日本でビジネスをしたい、あるいは日本で学びたいと思う、そういう『魅力ある日本』の実現に向けて、今こそ人々が結集し真剣に取り組む気運を盛り上げていきたいのであります」と表現し、文脈に貫かれた日本のあるべき未来像への期待をにじませる。

本文は9章から構成される。順に紹介すると「魅力ある日本の創造を目指して」「市場経済体制のもとで活力あふれる経済を構成する」「超高齢化社会に対応した生活環境を整備する」「日本の未来を切り拓く科学技術開発体制を確立する」「政治のリーダーシップを確立し効率的な政府を実現する」「世界の平和と繁栄に積極的な役割を果たす」「創造性を引き出す人材育成システムを確立する」「企業は信頼される市民社会づくりの中心的役割を担う」「新日本創造プログラム2010の推進」と、日本問題の全体像をカバーする広範な分野にわたる。

私が関心を持った内容は2つある。一つは、経済界と政治との付き合い方に深く切り込んだ点である。政界と経済界の関係は大変複雑な要素を含んでいる。経団連は政治献金の斡旋をすでに廃止しただけに、圧力団体の武器である政治献金という媒体を破棄して政治とどう付き合えるのか、その去就が注目されている。したがって、内容的にはもう少し踏み込んで解説があっても良かった。また、安全保障・防衛問題も経済界として珍しく、正面から論陣を張っていたのは評価できるが力不足の感は否めない。

本書を取り上げたもう一つの理由は、コンピュータ社会の問題について興味深い提言を行っているからである。高度情報通信社会は21世紀の来るべき未来像を投影してくれる。コンピュータは国民のライフスタイルを変え、インターネットなど企業の情報化は産業構造も変革していく。その点、本書は、行政、産業、生活に分けてネットワーク社会実現への課題を論述している。規制緩和の必要性を最優先したのは共感できる。

結局、経済団体が日本の将来像を提言するというよりも、経済界が総力を挙げてシンクタンク的な総合分析を行ったと見るべきであろう。ややもすると、ＰＲ的使法の経済界の本も、こと本書に関しては、国家的グランド・デザインの構築にあえて挑戦した力作と括えることができる。日本が世界に発信すべき「日本の未来像」の提言内容を兼ね備えた書物として評価したい。

（情報学部教授）